

令和2年度 区民フォーラムみどり

実 施 報 告



令和2年8月27日

目 次

1 実施概要	1
2 意見交換の内容	2
テーマ 1　郷土愛を育てるまちづくり	
～緑太郎ロードを通じて魅力発見	2
テーマ 2　わたしと緑区	
～2025年の緑区を夢見る	5

1 実施概要

- (1)目的 緑区の広聴機能のひとつとして、意見の交換を通じて各々が新たな気づきを得るとともに、それらの知見を区の行政の参考とすることを目的に、意見交換及び交流の場として区民フォーラムみどりを実施する。
- (2)日 時 令和2年8月27日（木）10：00～12：00
- (3)会 場 緑区役所3階 大会議室
- (4)参加者 [参加者] 9名（1名欠席）
[事務局] 3名
緑区役所区民生活部コミュニティ課
[コンサルタント] 2名
株式会社 社会構想研究所
- (5)テーマ テーマ1 郷土愛を育てるまちづくり
～緑太郎ロードを通じて魅力発見
テーマ2 わたしと緑区～2025年の緑区を夢見る

2 意見交換の内容

テーマ1 郷土愛を育てるまちづくり～緑太郎ロードを通じて魅力発見

テーマ設定の趣旨

緑区では、気軽に運動を楽しめるウォーキングコースとして原山、尾間木、三室、美園の4地区に「緑太郎ロード」を設定している。

各コースは、見沼田んぼや桜並木などの景観が楽しめたり、「緑区お宝100選」として選定された名所旧跡があつたりと、緑太郎ロードを通じて緑区の良さを発見でき、緑区への愛着を高めることができる。

今回の区民フォーラムみどりでは、参加者に事前にコースを体験していただき、それぞれの参加者が気がついた緑区の魅力や、今後の緑太郎ロードの活用アイデアなどの意見交換を行った。

コース全体の感想

- ・ コースが平坦で、アップダウンがほとんどなく歩きやすい。
- ・ 緑区は緑が多く自然豊か。見沼通船堀や清泰寺、氷川女體神社など歴史のある場所も多い。
- ・ 桜並木や日本一の桜回廊など、どこを歩いても桜が素晴らしい。魅力を発信できると良い。
- ・ 見沼田んぼは地図上に表記されていないので、市民でも知らない人がいる。
- ・ コースの節目節目に次の看板までの距離表示つきの案内看板がほしい。マップを持たなくても距離感覚をつかみながら歩けるようになると楽しめる。
- ・ 「浦和レッズコース」があっても良い。美園コミュニティセンターに浦和レッズ関連の展示があるので立ち寄り、埼玉スタジアムへ向かう。また、「レッズローズ」を植栽している場所をコースに入れたらどうか。
- ・ 御神徳が「厄除け」や「縁結び」が多かったので、PRしても良い。
- ・ 季節毎に見られる、花や木等の紹介があると良い。
- ・ 街灯がない場所は夕方は真っ暗なので、注意喚起をマップに記載してほしい。
- ・ トイレがあるところは、トイレマークを表示してほしい。

尾間木コース

- ・ 途中に公園があり、休憩するのにちょうどいい。
- ・ 桜橋のあたりは水を見ると涼しげで、周りの緑とあわせてとても癒された。
- ・ 桜橋の下にサワガニがいっぱいいる。
- ・ 和田通りの桜のトンネルが最高で、桜を見るのに群を抜いている。
- ・ 見沼通船堀、見沼代用水西縁は木が覆っていて直射日光を避けられ涼しい。
- ・ 清泰寺は武田家と保科家ゆかりの見性院の墓があり、地元の人にはあまり知られていないので、もっと周知したらどうか。
- ・ より見沼代用水東縁を長く歩くコースで、見沼通船堀から東縁に北上するコースを提案したい。
- ・ 大間木公園で東浦和駅へ戻ればもっと短いコース設定もできる。

原山コース

- ・ まち中なので訪れやすい。少しだけ歩くのも良いコースである。
- ・ さくら通りも桜の季節にはとても良い。
- ・ 463号線バイパスの北側の細い道のほうが、歩きやすく景色ものどかで良いのではないか。
- ・ 大谷口県営住宅付近から県道を中尾交番へまっすぐ行くより、中尾小学校付近を経由したほうが良い。小学生が稻作を行っており、まち中のコースでも自然に触れられて良いと思う。

三室コース

- ・ 台地上の住宅と見沼田んぼが半々という地域で、緑区を象徴するようなコースだと思う。
- ・ 目玉は浦和博物館（令和3年3月31日まで閉館中）。昔の生活様式が展示されている。建物自体も埼玉県師範学校校舎（鳳翔閣）を復元したもの。
- ・ 見沼大橋から秩父連山や武甲山、赤城山も見える。
- ・ JA三室支店から文殊寺の間には歩道がなく狭い道があり、自動車の抜け道にもなっていて少し危ない。

- ・ 氷川女體神社から台地へ上り、参道鳥居をくぐってまた下りるコースになっているが、代用水西縁をそのまま進んだほうが良いのではないか。

美園コース

- ・ 鷺神社のヤブツバキは本殿の裏にあり、樹齢が500年以上と言われている。
- ・ 鷺神社では獅子舞が行われ、無形民俗文化財に指定されている。
- ・ 総持寺は「ボタン寺」といわれており、ボタンの花園はさいたま市の広報誌の表紙になったこともある。また、山門の鐘楼も有名。
- ・ たくさん神社や寺があるコースで、マップには所要時間2時間10分とあるが寺社の探訪を楽しんでいくともっと時間はかかる。

まとめ

- 自然、歴史、文化が独立してあるのではなく、重なりあっていいるから緑太郎ロードに魅力がある。
- 野菜直売所などはコースマップには載せられないが、口コミで広がりコースを育てる。SNS（フェイスブックやツイッター）等に口コミの場があると良い。
- 緑太郎ロードを歩きたい！と思った人が参照できるサイト等があると良い。
- 新たに案内看板を作ると考えたときに、看板を実際に設置するよりは、ウェブで周知したほうが、コースや見どころポイントの変更に対応できると思われる。
- 緑太郎ロードは強力なコンテンツであり、それは一人一人がそれぞれの関わり方ができ、あるいはつながりを広げることができる。そういうコンテンツである。これをベースにして、緑区に愛着を持ち、区外の人に魅力を伝えるということになっていくといい。



テーマ2 わたしと緑区～2025年の緑区を夢見る

テーマ設定の趣旨

緑区には、さまざまな人が住みあるいは通ってきている。

そこで、2025年にどんなまちであると暮らしやすいか（働きやすいか）、人に居住を勧めやすいかというテーマで意見交換を行った。

発言

- ・ 高齢者、子ども、障がいのある人や妊産婦、そういう方に優しいまちであってほしい。
- ・ 「サステナビリティ」という言葉があるが、できるだけ継続した緑の保全ができるように考えていくべき。
- ・ さいたま市は観光のPRが弱いので、ガイドクラブや商店会とのタイアップがあっても良い。
- ・ 緑区在住の方でも、緑区のことを知らない人もいるので、ガイドを活用し知ることができたら、緑区の発展に繋がるのではないか。
- ・ 車のない人にとっても、行きやすい区役所にするにはどうしたらいいか。
- ・ 若者が使うツイッターやインスタグラムでもっと大々的に緑区や緑太郎ロードのいいところ・魅力的なところを発信する。
- ・ ウェブを活用することで、若者に情報を伝えていく。

まとめ

- これから5年かけて担い手をつないでいくこと。2025年に向けて、自分だけでやろうとしないで、色々な人とのつながりを持ちながらやっていくといいのではないか。
- 担い手がぽつんぽつんといいる状態から、例えば地域と学校の連携、浦和レッズとの連携、あるいは、ガイドクラブと商店会の連携とつなげていく。緑の残し方も人と人のつながりのなかで考えられるかもしれない。
- 交通もまちと住民、行政をつないでいくためのもの。交通事業者にそういうニーズを伝えていくことも必要になる。